

## ピックアップ事例一覧

地域の課題や医療の状況は異なります。医療情報連携ネットワークは、それぞれの状況の中で、どうすれば患者さんの健康を地域全体で見守ることができるかを考慮して構築されているため、一様ではありません。

ここでは、運用開始時期、対象地域、運営主体の組織形態、取得している情報、患者さんの同意の取得方法等が異なる特徴的な13のネットワークについて、それぞれの運営主体等からお話を伺い、構築のストーリーをまとめたものを紹介しています。

事例のストーリーは、1.全体概要（特徴、成功要因、構築時の苦労、メッセージなど）と2.構築手順に沿った実施事項で構成されています。

ここで紹介する事例はあくまで一例であり、今後様々な観点から特徴的と思われる事例があれば、情報を充実させていきます。

医療連携ネットワークの名称 (開始年、所在地)	特徴	対象地域	運営主体の組織形態	共有情報の取得元	患者参加同意方法
<b>あじさいネット</b> (2004年、長崎県) 2017年3月時点	構築から12年間継続運用	全県域	NPO法人	病院 検査センター	参加施設リスト等から連携先を指定
<b>ピカピカリンク</b> (2010年、佐賀県) 2017年3月時点	医療従事者が中心となり構築、普及促進を担う別組織を持つNW	全県域 (アザレアネットと相互接続)	任意団体	病院 健診センター	受診先の施設毎に連携に同意
<b>アザレアネット</b> (2012年、福岡県久留米医療圏) 2017年3月時点	開示施設の自主財源のみでNWを構築	二次医療圏 (ピカピカリンク、八女筑後医療情報NWと相互連携)	任意団体	病院	受診先の施設毎に連携に同意
<b>さどひまわりネット</b> (2013年、新潟県佐渡医療圏) 2017年3月時点	電子カルテを前提にせず、レセコン等活用により小規模医療機関・介護施設との双方向の連携を実現	二次医療圏	NPO法人	病院 医科診療所 歯科診療所 薬局 検査センター 介護施設	参加施設全ての連携に同意
<b>晴れやかネット</b> (2013年、岡山県) 2017年2月時点	高い病院参加率のNWを短期間で構築した全県域NW	全県域 (HMネットと相互接続)	一般社団法人	病院 医科診療所 薬局 介護施設	受診先の施設毎に連携に同意
<b>まめネット</b> (2013年、島根県) 2017年2月時点	医療ニーズに沿った豊富なサービスと病院および診療所の高い参加率を実現した全県域NW	全県域 (鳥取県おしどりネットへの片側接続)	NPO法人	病院 医科診療所 薬局 訪問看護 介護事業所	全ての開示施設の情報公開に包括同意  閲覧施設は受診先の施設毎に連携に同意

医療連携ネットワークの名称 (開始年、所在地)	特徴	対象地域	運営主体の組織形態	共有情報の取得元	患者参加同意方法
<b>びわ湖あさがおネット</b> (2014年、滋賀県) 2017年2月時点	既存NWを活かして全県展開	全県域	NPO法人	病院 医科診療所 歯科診療所 薬局 訪問看護 介護施設 その他(行政、保健所等)	受診先の施設毎に連携に同意
<b>山科医療介護連携ネットワーク</b> (2015年、京都府山科地域) 2017年3月時点	標準技術を活用し、データ蓄積。在宅医療・介護現場の使いやすさを追及したアプリを実装	地区	医療法人	病院 医科診療所 検査センター 訪問看護ステーション 居宅介護支援事業所	参加施設リスト等から連携先を指定
<b>おきなわ津梁ネットワーク</b> (2013年、沖縄県) 2018年3月時点	「生活習慣病の早期発見・重症化防止」をコンセプトに、必要な機能に絞られたシンプルなシステム	全県域	医師会	病院 医科診療所 調剤薬局 外注検査会社 健康保険者	全ての開示施設の情報公開に包括同意  閲覧施設は受診先の施設毎に連携に同意
<b>とねっと</b> (2012年、埼玉県利根保健医療圏) 2018年3月時点	行政が積極的にバックアップのもと、子どもの食物アレルギー対策や救急車等の幅広い利活用	二次医療圏	行政	病院 外注検査会社 住民による手入力	受診先の施設毎に連携に同意
<b>HMネット</b> (2013年、広島県) 2018年3月時点	「特定のシステムベンダーに依存しない」のコンセプトに基づいて構築された、マルチベンダーのシステム	全県域	医師会	病院 調剤薬局 外注検査会社 住民による手入力	受診先の施設毎に連携に同意
<b>ちようかいネット</b> (2011年、山形県) 2019年3月時点	パッケージの標準機能の積極的な利活用	二次医療圏	任意団体	病院 参加施設によるファイルアップロード 参加施設による手入力	個別同意(施設ごとに同意書の提出を求める)
<b>うすき石仏ねっと</b> (2008年、大分県) 2020年2月時点	多職種の情報共有を実現する独自システム	地区 (市外では大分市、由布市、津久見市の3医療機関などが参加)	任意団体	病院 調剤薬局 外注検査会社 施設による手入力	個別同意(施設ごとに会員カードの提示を以て同意と見なす)

◀ TOPへ戻る

ページの先頭へ戻る ▲

▶ 医療情報連携ネットワークはなぜ必要？

- ▶ 出発点は地域医療を良くしたいという思い
- ▶ 医療情報連携ネットワークの導入効果
- ▶ 利用者の声(導入効果)

▶ 医療情報連携ネットワークをどう作る？

- ▶ 医療情報連携ネットワークの構築手順
- ▶ 実施のポイント
- ▶ 利用者の声(苦労した点、成功要因)
- ▶ ガイドライン、書式例など

▶ 医療情報連携ネットワークの具体例を見る

▶ データで見る

▶ ピックアップ事例

▶ 事例を探す

▶ 構築手順について

▶ Step1 : 計画

▶ Step2 : 構築

▶ Step3 : 運用

▶ Step4 : 更改

▶ 用語集

▶ お役立ち情報

▶ リンク集

▶ 資料ダウンロード